

皮膚科のトリビア

244

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第123回日本皮膚科学会総会から

令和6年6月6日

高Ca血症をきたした有棘細胞癌

50歳代男性、10年前から左肩に腫瘤があり、増大し、出血を伴った。15 cm径の巨大有棘細胞癌で、腋窩リンパ節腫大を伴っていた。採血で血清Ca値19.8 mg/dL、血清クレアチニン値2.53 mg/dLと、高Ca血症と腎機能障害を認めた。副甲状腺ホルモン関連蛋白(parathyroid hormone related protein: PTHrP) 10.1 pmol/Lと高値であったことから、腫瘍随伴性高Ca血症(malignancy associated hypercalcemia: MAH)と診断。悪性腫瘍に伴う高Ca血症ではMAHと、骨転移に伴う広範な骨破壊による高Ca血症(local osteolytic hypercalcemia: LOH)があり、MAH 80%、LOH 20%の頻度である。成人T細胞白血病(adult T-cell leukemia/lymphoma: ATL)では80%でMAHを伴う。固形癌によるMAHは肺癌が多いが、皮膚科領域では有棘細胞癌がもっとも多い。

一言コメント

「悪性腫瘍に伴う高Ca血症は骨転移ばかりかと思っていた。高Ca血症は、腎臓での尿濃縮機能を低下させるため、ほとんど全例で脱水が生じるとのこと。勉強になった。」

●第123回日本皮膚科学会総会から

令和6年6月6日

耳介低位から考える先天性疾患

0歳男児、顔面のカフェオレ斑が主訴。その他耳介低位、後方回転、漏斗胸を認めた。同伴の母の顔面に多数の黒子があったため、Noonan syndrome with multiple lentigines(旧疾患名: Leopard症候群)を疑った。心・内分泌系の合併はなし。遺伝子検査で既知のPTPN11遺伝子に変異を認めた。耳介低位は多くの先天性疾患で伴うことがあり、診断の手がかりになる。

一言コメント

「耳介低位で検索すると、以下の疾患名が出てきた。Down症、Turner症候群、Noonan症候群、Leopard症候群、バトウ症候群、ディジョージ症候群、クリ・デュ・シャ症候群(ネコ鳴き症候群)、エドワーズ症候群、フラジャイルX症候群(脆弱X症候群)、岡本症候群、ゴールデンハル症候群。ほとんど知らない疾患だった。」

●第123回日本皮膚科学会総会から

令和6年6月6日

Corynebacterium属はチロシンがあるとメラニンを産生する

70歳代女性、3年前から右下眼瞼に腫瘤があり徐々に増大。結膜下に黒色の小結節があり、切除標本ではメラニンが豊富な重層扁平上皮からなる嚢腫で、内容には角質がみられたことから、色素性マイ

ボーム腺嚢腫 (pigmented intratarsal keratinous cyst) と診断した。嚢腫壁に接するように細菌コロニーがみられ、菌学的に *Corynebacterium* 属であった。 *Corynebacterium* 属はチロシン存在下でメラニンを産生することが知られていて、これが色素の原因と考えた。

一言コメント

「ニキビの黒comedoや粉瘤のへそも *Corynebacterium* がつくるメラニンの色だろうと思った。」

●第123回日本皮膚科学会総会から

令和6年6月6日

レミトロ®という名のCTCL治療薬

レミトロ® (デニロイキン ジフチトクス) は、IL-2 とジフテリア毒素の部分配列からなる融合蛋白質である。腫瘍細胞表面上のIL-2受容体 (CD25) と特異的に結合し、細胞内に移行したジフテリア毒素断片が蛋白質合成を阻害することで細胞死を誘導する。再発または難治性の末梢性T細胞リンパ腫 (peripheral T-cell lymphoma: PTCL) および皮膚T細胞性リンパ腫 (cutaneous T-cell lymphoma: CTCL) に適応がある。PTCLおよびCTCL患者36人の奏効率は36.1%であった。主な有害事象はAST、ALT増加、低アルブミン血症、リンパ球減少症、発熱である。70歳代の菌状息肉症患者にレミトロ®を投与したところ、CTCLの評価ツールであるmodified severity-weighted assessment tool (mSWAT) は42から29まで低下した。

一言コメント

「1日1回1バイアルを5日連続投与し、16日間のインターバルをおき、この21日間を1クールとして治療を継続するという用法。リンパ腫関連の新規治療薬で、初耳だった。」

●第123回日本皮膚科学会総会から

令和6年6月6日

炎症性粉瘤の細菌培養結果

79例の炎症性粉瘤患者の細菌培養を行った。抗

菌薬内服後や自壊した状態での患者が半数を占めたが、嫌気性菌である *Finegoldia magna* が20例ともっとも多く、次に口腔内常在菌である *Actinomyces neuii* が15例、黄色ブドウ球菌は3例で3.8%、6例は陰性だった。

一言コメント

「意外な結果だった。自身の経験ではほとんどの場合、細菌培養は陰性で結果が返ってくる。 *Finegoldia* をターゲットとして嫌気性菌の培養を依頼してみよう。この菌の抗菌薬感受性はどのようなだろう。」

●第123回日本皮膚科学会総会から

令和6年6月6日

慢性GVHDの新規治療薬

20歳代の女性、急性リンパ性白血病のため、非血縁者骨髄移植を受けた。半年後から顔面、頸部に紅斑が出現、さらに9カ月後から全身の硬化が出現し、硬化型慢性移植片対宿主病 (graft versus host disease: GVHD) と診断された。プレドニソロン20mg/日とタクロリムス内服で効果なく、イブルチニブ内服を開始した。数カ月後から硬化の進行は停止し、関節可動域の改善も認められた。イブルチニブはブルトン型チロシンキナーゼ (BTK/ITK) 阻害薬で各種血液癌の治療薬だが、2021年に慢性GVHDの治療薬として承認された。

一言コメント

「その後2023年にはJAK1/2 阻害薬ルキソリチニブが、2024年には選択的ROCK2 阻害薬ベルモスジルがそれぞれ慢性GVHDの治療薬として承認されている。作用機序の違う3種類の薬剤があるとは、知らなかった。ROCK2とはRho-associated coiled-coil containing protein kinase 2の略で、T細胞受容体シグナル伝達を含むT細胞免疫応答の調整、細胞骨格系再構築およびエフェクターT細胞の機能獲得において中心的役割を果たすRhoGTPaseシグナル伝達経路の下流に存在する分子とのこと。強皮症にも有効かもしれない。」